

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【呼吸器外科】

指標名 周術期管理のQI

近隣医師（DtOD）からの照会を可能な限り受ける。DPC Ⅱの期間内の退院を徹底する。

目標：指標名

地域の医療機関からの紹介・照会に迅速かつ適切に対応し、円滑な受け入れ体制を維持する。
また、術後管理・退院支援を計画的に行い、患者の安全を確保しつつDPCⅡ期間内での退院率向上を図る。

目標：ゴール達成による効果

近隣医療機関との連携強化により、紹介患者の受け入れが円滑となり、地域における呼吸器外科診療の信頼性向上につながる。
さらに、標準的な術後管理と早期退院支援を徹底することで、在院日数の適正化、病床利用率の改善、医療資源の効率的活用が期待できる。

目標：ゴールに対する成果の状況

隣医師からの紹介・照会に対しては、外来・入院受け入れ体制を維持し、可能な限り迅速な対応に努めた。
DPCⅡ期間内退院については、術後の全身管理、早期離床、退院支援の多職種連携を進めることで、概ね目標に沿った運用を行った。
一方で、術後の発熱などで、入院期間が1-2日延びる症例もあり今後も症例に応じた退院調整の最適化が課題である。

目標：ゴール達成度

- ☒ S : 大幅な目標を上回った
- ☐ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☐ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

■ 課題

- ① 近隣医師（DtOD）対応に関する課題
 - ・紹介受け入れのタイミングが診療体制（手術日・外来枠）に依存し、即時対応が難しい場合がある
 - ・紹介時の情報不足（画像・検査データ不備）により診療開始が遅れることがある
- ② DPCⅡ期間内退院に関する課題
 - ・高齢患者や併存疾患を有する症例で在院日数が延長しやすい
 - ・術後合併症（肺炎、無気肺、気漏遷延など）による退院遅延
 - ・退院調整（転院・在宅支援）の遅れ